

大阪樟蔭女子大学 カリキュラムポリシー

【学芸学部】

学芸学部の教育目的を達成するために、以下のカリキュラム編成を行う。

本学部では、人間生活の基盤を構成する言語・文化・心理・生活環境に関する専門知識を体系的に学べるように、学科専攻科目を設置する。また、学科専攻科目を支える幅広い教養を身につけられるように、すべての学生が履修する全学共通カリキュラムとして、学士課程基幹教育科目を設置する。さらに、学際的な視点を養うことを目的として、専攻分野の枠を超え広く関心のある科目を履修できるように、他学科履修の仕組みを置く。

また、教職等の諸資格の取得に必要な科目を設置する。

●国文学科

国文学科は、ディプロマポリシーに掲げる知識・技能等を修得させるために、学士課程基幹教育科目、学科専攻科目等を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に設置する。なお、カリキュラムの体系についてはカリキュラムマップにおいて明示する。

1)教育内容

1. 4年間をととした学修の基礎となる学士課程基幹教育科目に関して、初年次教育において必修科目を履修し、論理的思考力・コミュニケーション力・情報収集力等の基本となるスキルを獲得する。
2. 学士課程基幹教育科目主題別科目群に関しては、初年次から自らの関心に応じていくつかの主題領域、科目を選択し、現代社会を批判的に捉える視点、問題を発見する力や解決に向けて継続的に取り組む力を獲得する。また、学修の成果を就業につなげ、実社会に役立てるために、2年次以降、学士課程基幹教育科目キャリア系科目を履修する。
3. 学部共通専攻科目である必修科目『学芸学部の学び』を初年次に履修し、学芸学部の幅広い専門領域を理解し、視野を広げる。
4. 国文学科で学ぶことの意義を理解し、自分が学びたい勉強内容を再認識するために、学科専攻基礎科目を初年次に必修科目として履修する。
5. 2年次からは、「国語・国文学」、「書道」、「創作表現」、「キャラクター文芸」の4コースのうちの一つを選択し、コースのカリキュラムを中心に、日本語・日本文化に関する知識や技術を習得する。
6. 2・3年次においては、基幹科目を履修することにより、自分が選択したコースの内容を習得し、学問的なアプローチの方法について学ぶ。
7. 3・4年次においては、発展科目の履修により、各人の問題意識を持ってこの分野における問題を探究し、日本語・日本文化を自ら表現することを学ぶ。
8. 卒業論文・卒業制作においては、日本語・日本文化の担い手としての自覚を持ち、研究成果や作品を積極的に社会に発信する。
9. 中学校・高校の国語教員、高校の書道教員を目指す学生のために教職課程に必要な科目を置く。

2)教育方法

10. 他者と協力して問題解決を図る能力を高めるために、学士課程基幹教育科目キャリア系科目においてアクティブラーニング、PBL、グループワーク、学外でのフィールドワーク、インターンシップ等への参加、体験による教育方法を取り入れる。

11. 専攻科目は、授業の目的により講義、講読、演習、実習の4種類の形態の授業をおこなう。「講義」においては基礎的な知識について聞き、理解するための力を養う。「講読」においては、テキスト内容を深く読み、作品を鑑賞する力を養う。「演習」においては少人数で発表を中心とした展開で学生の主体性を引き出す。「実習」は少人数で個別指導をおこなうことで技術を高めることが目的である。

12. 学修および学生生活に関する目標・結果・評価を記録するため、一人一冊の学修ポートフォリオを作成し、学習成果と学生生活の状況を学期ごとに記入する。定期的あるいは臨時的におこなうアドバイザーとの面談時にポートフォリオの内容を共有し、適切なアドバイスを受けることにより、4年間の成長を実感することができる。

3)教育評価

13. 卒業までに修得すべき、情報リテラシー・論理的思考力・自己管理能力・問題解決力・チームワーク等の汎用的能力を測る学士力指標を用いた評価ルーブリックおよび達成度自己評価によって、学生が自己の達成度を評価するとともに、アドバイザー教員からの評価を受け、面談をとおして振り返りと改善を行う。

14. 4年間の総合的な学習成果の評価をおこなうために、「卒業論文・卒業制作」を必修科目として課し、複数教員(主査・副査)により評価する。

●国際英語学科

国際英語学科は、ディプロマポリシーに掲げる知識・技能等を修得させるために、学士課程基幹教育科目、学科専攻科目等を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に設置する。なお、カリキュラムの体系についてはカリキュラムマップにおいて明示する。

1)教育内容

1. 4年間をとおした学修の基礎となる学士課程基幹教育科目に関して、初年次教育において必修科目を履修し、論理的思考力・コミュニケーション力・情報収集力等の基本となるスキルを獲得する。

2. 学士課程基幹教育科目主題別科目群に関しては、初年次から自らの関心に応じていくつかの主題領域、科目を選択し、現代社会を批判的に捉える視点、問題を発見する力や解決に向けて継続的に取り組む力を獲得する。また、学修の成果を就業につなげ、実社会に役立てるために、2年次以降、学士課程基幹教育科目キャリア系科目を履修する。

3. 学部共通専攻科目である必修科目『学芸学部の学び』を初年次に履修し、学芸学部の幅広い専門領域を理解し、視野を広げる。

4. 1,2年次は、実践的な英語運用能力を身につけるためにCEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)に準拠した学科独自の基礎スキル科目群を履修し、聞く・話す・読む・書く力の4技能の向上を目指す。

5. TOEIC, TOEFL, 英検(STEP)など各種検定試験に対応できる力を身につけるために『English Workshop A~D』を配置し、客観的な視点から自らの英語力を把握しその向上に努める。

6. 国際英語学科で学ぶことの意義を理解する学科基礎教養科目を初年次から2年次にかけて、3, 4年次の学びを意識しながら履修する。

7. 2年次秋期に協定校への海外中期留学に参加することで、身につけた英語力を実践し3,4年次での学修につなげ

る。

8. 3,4 年次は、多文化社会に適応できる広い視野と豊かな教養をもった人材を育成するため、(a)「グローバルコミュニケーションコース」、(b)「言語教育実践コース」の2コースからいずれかを選択する。英語運用能力については、各コースに特化した content-based の科目群で履修する。また(a)では、英語力を活かして幅広く社会で活躍するために必要な科目群を配置し、例えば、「総合旅程管理主任者」の資格取得をめざす。(b)では、言語教育の専門家になるために、児童英語指導者になるのに必要な科目群、あるいは「中学校・高等学校教諭 1 種(英語)」取得に必要な科目群、外国人に日本語を教える「日本語教員資格」に必要な科目群を配置し資格取得をめざす。

9. 4年次においては、コース別の学びに加えて、4 年間の学習の集大成として演習を中心に卒業論文を執筆する。本学科で身につけた知識・論理的思考力・分析力を、個々の学生の興味関心にそって深め、ディプロマポリシーに掲げた能力を身につけ、大学での学びを完成させる。

2)教育方法

10. 英語運用能力を高めるために、「基礎スキル科目群」においては、ネイティブ・スピーカー教員を中心に、“Learning by Doing”の方針に基づき、レベル別少人数クラスで、アクティブラーニング、ペアワーク、グループワークなどを積極的に教育方法に取り入れ、授業を行う。

11. 「パスポート」と命名されたポートフォリオに、4技能別に記録を累積し、各学期ごとの進捗状況を学生・教員双方で確認する。

12. 学科専攻科目においては、座学と共に学外でのフィールドワーク、実習・体験による教育方法を取り入れながら、科目間の実施時期や講義内容に関連を持たせることに配慮して、計画的・段階的に実施する。

13. 樟蔭学園英語教育センターにおいて、課外での英語学習を学生の能力・目標に応じて個別にサポートする。

14. 学修に関する目標・記録・評価の総合 Web ツールを活用し、一般的な4年間にわたる自己の学修成果と学生生活を自分自身で管理するとともに、アドバイザー教員との面談や支援のツールとしても活用する。

3)教育評価

15. 卒業までに修得すべき、情報リテラシー・論理的思考力・自己管理力・問題解決力・チームワーク等の汎用的能力を測る学士力指標を用いた評価ルーブリックおよび達成度自己評価によって、学生が自己の達成度を評価するとともに、アドバイザー教員からの評価を受け、面談をとおして振り返りと改善を行う。

16. 学科専攻科目に関わる4年間の総合的な学修成果の評価は「卒業論文」によって行い、評価ルーブリックを活用し、実施する。

●心理学科

心理学科は、ディプロマポリシーに掲げる知識・技能等を修得させるために、学士課程基幹教育科目、学科専攻科目等を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に設置する。なお、カリキュラムの体系についてはカリキュラムマップにおいて明示する。

1)教育内容

1. 4年間をととした学修の基礎となる学士課程基幹教育科目に関して、初年次教育において必修科目を履修し、論理的思考力・コミュニケーション力・情報収集力等の基本となるスキルを獲得する。

2. 学士課程基幹教育科目主題別科目群に関しては、初年次から自らの関心に応じていくつかの主題領域、科目を選択し、現代社会を批判的に捉える視点、問題を発見する力や解決に向けて継続的に取り組む力を獲得する。また、

学修の成果を就業につなげ、実社会に役立てるために、2年次以降、学士課程基幹教育科目キャリア系科目を履修する。

3. 学部共通専攻科目である必修科目『学芸学部の学び』を初年次に履修し、学芸学部の幅広い専門領域を理解し、視野を広げる。

4. 初年次においては、「人間の客観的・中立的理解」をめざす心理学の学問的基礎とそのための方法論的基礎を学ぶ科目を履修する。さらに心理学各分野の個別的内容を学ぶ科目を履修し、各領域への関心を高める。また心理学における方法論的基礎としての記述統計や、心理学実験に基づくデータ収集およびそれを分析した論文(レポート)作成について実習を通して体験的に学ぶ。

5. 2年次は、学科基礎科目を中核として、心理学と精神医学などの関連領域について体系的かつ詳細に学ぶための講義科目を履修する。さらに実習科目として、心理検査、調査、実験等を体験的に習得する科目を履修する。

6. 3年次からは、「総合心理コース」と「臨床心理コース」のどちらかを選択する。いずれのコースにおいても、心理学の知識・方法論・技能を活用・応用して社会に貢献する実践力の習得を可能とする発展科目を履修する。「総合心理コース」では特に人の心の成り立ちや働き、発達などに関する最先端の知識と情報分析の高度な技能、「臨床心理コース」では特に対人関係、心の悩みと援助などに関する最先端の知識とコミュニケーションや心理臨床の高度な技能を習得する。

7. 4年次では、以上の履修内容を統合した学びとして、心理学の学問的立場からの問題設定、問題解決およびプレゼンテーションの能力を養成するため卒業論文を作成する。

8. 精神保健福祉士資格試験の受験資格の取得を希望する者は、そのために必要な科目を初年次より履修し、国家資格取得をめざす。

2)教育方法

9. 他者と協調しながら、社会における問題解決に心理学を活用する力を身につけるために、学科専攻科目、学士課程基幹教育科目、キャリア系科目においてアクティブラーニング、PBL、グループワークを教育方法に取り入れ、授業を行う。

10. 社会で心理学を活用する具体的なイメージを持つことができるよう、学科専攻科目、学士課程基幹教育科目キャリア系科目において、心理学を学んで活躍する各分野の専門家による講義やインターンシップ、精神保健福祉士資格試験の受験資格取得のための学外実習等を実施する。

11. 学修に関する目標・記録・評価の総合 Web ツールを活用し、4年間にわたる自己の学修成果と学生生活を自分自身で管理するとともに、アドバイザー教員との面談や支援のツールとしても活用する。

3)教育評価

12. 卒業までに修得すべき、情報リテラシー・論理的思考力・自己管理能力・問題解決力・チームワーク等の汎用的能力を測る学士力指標を用いた評価ルーブリックおよび達成度自己評価によって、学生が自己の達成度を評価するとともに、アドバイザー教員からの評価を受け、面談をとおして振り返りと改善を行う。

13. 社会の様々な領域で心理学の知識と技能を活かして活躍できる力の修得に関わる総合的な学習成果の評価は、「卒業論文」および「卒業論文発表会」でのプレゼンテーションに基づいて実施する。

●ライフプランニング学科

ライフプランニング学科は、ディプロマポリシーに掲げる知識・技能等を修得させるために、学士課程基幹教育科目、

学科専攻科目等を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に設置する。なお、カリキュラムの体系についてはカリキュラムマップにおいて明示する。

1)教育内容

1. 4年間をとした学修の基礎となる学士課程基幹教育科目に関して、初年次教育において必修科目を履修し、論理的思考力・コミュニケーション力・情報収集力等の基本となるスキルを獲得する。
2. 学士課程基幹教育科目主題別科目群に関しては、初年次から自らの関心に応じていくつかの主題領域、科目を選択し、現代社会を批判的に捉える視点、問題を発見する力や解決に向けて継続的に取り組む力を獲得する。また、学修の成果を就業につなげ、実社会に役立てるために、2年次以降、学士課程基幹教育科目キャリア系科目を履修する。
3. 学部共通専攻科目である必修科目『学芸学部の学び』を初年次に履修し、学芸学部の幅広い専門領域を理解し、視野を広げる。
4. ライフプランニング学科で学ぶことの意義を理解する学科専攻基礎科目を初年次から2年次にかけて必修科目として履修する。
5. 「家計」、「家庭と地域」、「キャリア・ビジネス」、「フードスタディ」の専門的な学びの4領域からなる学科専攻科目を履修し、主体的、自律的にライフ・イベントに対処するための基礎的知識から、実践的スキルまでを身につける。
6. 初年次においては、暮らしの基盤となる家庭経営について学ぶ『ファイナンシャル・プランニング概論』をはじめとする必修科目を4領域にわたって履修し、ライフ・イベントを考えるための基礎となる家庭をとりまく社会のしくみ・制度等について理解する。
7. 2年次からは、「ライフデザインコース」と「フードスタディコース」の2つのコースからどちらかを選択する。「ライフデザインコース」は「家計」領域、「フードスタディコース」は「フードスタディ」領域を核としながら、複数の領域にまたがって学科専攻科目を履修し、家計、ビジネスや食の分野において、さまざまな活動を適切にマネジメントできる専門的知識と実践につながるスキルを獲得し、それぞれの分野において専門性の高い見識を養う。また、「ライフデザインコース」では、ファイナンシャル・プランニング技能士などの、「フードスタディコース」では、フードコーディネーターなどの資格取得をめざす。
8. 4年次においては、コース別の学びに加えて、演習を中心に卒業論文を執筆し、大学での学びを個々の学生の興味関心にそって深め、ディプロマポリシーに掲げた能力を身につけ、大学での学びを完成させる。

2)教育方法

9. 主体的、自律的にライフ・イベントに対処できる力、また他者と協力して問題解決を図る能力を高めるために、学科専攻科目、学士課程基幹教育科目キャリア系科目においてアクティブラーニング、PBL、グループワークを教育方法に取り入れ、授業を行う。
10. 学科専攻科目、学士課程基幹教育科目キャリア系科目において、学外でのフィールドワーク、インターンシップ等への参加、体験による教育方法を取り入れるとともに、その実施時期・課題について講義科目等との整合や連携に配慮して計画的に実施する。
11. 学修に関する目標・記録・評価の総合 Web ツールを活用し、4年間にわたる自己の学修成果と学生生活を自分自身で管理するとともに、アドバイザー教員との面談や支援のツールとしても活用する。

3)教育評価

12. 卒業までに修得すべき、情報リテラシー・論理的思考力・自己管理能力・問題解決力・チームワーク等の汎用的能力を測る学士力指標を用いた評価ルーブリックおよび達成度自己評価によって、学生が自己の達成度を評価するとともに、アドバイザー教員からの評価を受け、面談をとおして振り返りと改善を行う。

13. 主体的、自律的にライフ・イベントに対処でき、さまざまな活動を適切にマネジメントできる専門的知識とスキルを身につけるといふ学科専攻科目に関わる 4 年間の総合的な学修成果の評価は「卒業論文」によって行い、複数教員によって評価ルーブリックを活用し、実施する。

●化粧ファッション学科

化粧ファッション学科は、ディプロマポリシーに掲げる知識・技能等を修得させるために、学士課程基幹教育科目、学科専攻科目等を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に設置する。なお、カリキュラムの体系についてはカリキュラムマップにおいて明示する。

1)教育内容

1. 4 年間をとおした学修の基礎となる学士課程基幹教育科目に関して、初年次教育において必修科目を履修し、論理的思考力・コミュニケーション力・情報収集力等の基本となるスキルを獲得する。

2. 学士課程基幹教育科目主題別科目群に関しては、初年次から自らの関心に応じていくつかの主題領域、科目を選択し、現代社会を批判的に捉える視点、問題を発見する力や解決に向けて継続的に取り組む力を獲得する。また、学修の成果を就業につなげ、実社会に役立てるために、2 年次以降、学士課程基幹教育科目キャリア系科目を履修する。

3. 学部共通専攻科目である必修科目『学芸学部の学び』を初年次に履修し、学芸学部の幅広い専門領域を理解し、視野を広げる。

4. 化粧ファッション学科で学ぶことの意義を理解する学科基礎科目、学科基幹科目を初年時から 2 年次にかけて共通の必修科目又は選択必修科目として履修する。

5. 「よそおいの美」を創出させる 3 つの学びの専門領域—ファッション学専攻では『装いのエキスパート』、化粧学専攻化粧文化コースでは『粧いのコンシェルジュ』、化粧学専攻美容コースでは『美のエキスパート』からなる学科専攻科目を履修し、主体、自律をもって活躍できる基礎的知識と実践的スキルを身につける。

6. ファッション学専攻では、「服飾の美学と文化」に関する分析力、「ファッション科学」に関する理解力、「ファッションの設計」に関する創造力を醸成する。化粧学専攻では、「化粧の文化と社会的意義」の考察力、「化粧デザイン」の創造力、「新しい美」の提案力を育成する。化粧学専攻美容コースでは、美容師資格取得に必要な知識・技術を習得させ、美容師国家資格の取得を目指す。

7. 4 年次においては、専攻・コース別の学びに加えて、演習を中心に卒業研究を行い、大学での学びを個々の学生の興味関心にそって深め、ディプロマポリシーに掲げた能力を身につけ、大学での学びを完成させる。

2)教育方法

8. 主体的、自律的に人間生活に資する「よそおいの美」に関して創造できる力、また他者と協力して問題解決を図る能力を高めるために、学科専攻科目、学士課程基幹教育科目キャリア系科目においてアクティブラーニング、PBL、グループワークを教育方法に取り入れ、授業を行う。

9. 学科専攻科目、学士課程基幹教育科目キャリア系科目において、学外でのフィールドワーク、インターンシップ等

への参加、体験による教育方法を取り入れるとともに、その実施時期・課題について講義科目等との整合や連携に配慮して計画的に実施する。

10. 学修に関する目標・記録・評価の総合 Web ツールを活用し、4 年間にわたる自己の学修成果と学生生活を自分で管理するとともに、アドバイザー教員との面談や支援のツールとしても活用する。

3)教育評価

11. 卒業までに修得すべき、情報リテラシー・論理的思考力・自己管理力・問題解決力・チームワーク等の汎用的能力を測る学士力指標を用いた評価ルーブリックおよび達成度自己評価によって、学生が自己の達成度を評価するとともに、アドバイザー教員からの評価を受け、面談をとおして振り返りと改善を行う。

12. 主体的、自律的に人間生活に資する「よそおいの美」に関して創造でき、高度な専門的知識・技能を活用できる思考力とスキルを身につけるという学科専攻科目に関わる4年間の総合的な学修成果の評価は「卒業研究」によって行い、複数教員によって評価ルーブリックを活用し、実施する。

【児童学部】

●児童学科

児童学科は、ディプロマポリシーに掲げる知識・技能等を修得させるために、学士課程基幹教育科目、学科専攻科目等を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に設置する。なお、カリキュラムの体系についてはカリキュラムマップにおいて明示する。

1)教育内容

1. 4 年間をととした学修の基礎となる学士課程基幹教育科目に関して、初年次教育において必修科目を履修し、論理的思考力・コミュニケーション力・情報収集力等の基本となるスキルを獲得する。
2. 学士課程基幹教育科目主題別科目群に関しては、初年次から自らの関心に応じていくつかの主題領域、科目を選択し、現代社会を批判的に捉える視点、問題を発見する力や解決に向けて継続的に取り組む力を獲得する。また、学修の成果を就業につなげ、実社会に役立てるために、2 年次以降、学士課程基幹教育科目キャリア系科目を履修する。
3. 1 年次においては、『児童学概論』、『保育原理』など保育・教育を学ぶにあたって必要な基礎的な科目を履修するほか、『音楽表現』、『造形表現』など実技系の科目も配当し、以降の実習の準備もおこなう。
4. 2 年次からは「子ども芸術表現コース」「子ども心理教育コース」「臨床保育・福祉コース」「教科教育コース」に分かれ、それぞれの専門性を身につけるために基礎演習、コース科目を配置する。
5. 3 年次からはさらに専門的な科目を履修し、ゼミナールに分かれて少人数でディスカッションを重ねながら学びを深めていく。
6. 4 年次では4 年間の集大成としてゼミナールの中でそれぞれのテーマに合わせて卒業論文の作成・卒業制作を行う。
7. 幼稚園教諭(1 種)、小学校教諭(1 種)、保育士の資格・免許の取得に必要な科目を1 年次より実習時期にも配慮して適切に配置する。その上で、保育実習、教育実習を2 年次より順次おこなう。

2)教育方法

8. 自ら考え、チームとして問題解決を図る能力を高めるために、学科専攻科目、学士課程基幹教育科目においてアクティブラーニング、PBL、グループワークを教育方法に取り入れ、授業を行う。

保育・教育の基礎的な原理を学ぶ座学を中心とした科目を履修させた上で、それらを基礎として、保育・教育をする

9. 上で必要となる実践的な技能について少人数による実習形式で学ばせる。

10. 学外での実習をおこなうにあたっては、必要とされる技能が十分であるかの確認も含めた事前指導を十分おこなひ、事後には振り返りを徹底する。

11. 学修に関する目標・記録・評価の総合 Web ツールを活用し、4 年間にわたる自己の学修成果と学生生活を自分で管理するとともに、アドバイザー教員との面談や支援のツールとしても活用する。

3)教育評価

12. 卒業までに修得すべき、情報リテラシー・論理的思考力・自己管理能力・問題解決力・チームワーク等の汎用的能力を測る学士力指標を用いた評価ルーブリックおよび達成度自己評価によって、学生が自己の達成度を評価するとともに、アドバイザー教員からの評価を受け、面談をとおして振り返りと改善を行う。

13. 教職課程科目については、「教職課程履修カルテ」をもちいて、年度ごとの履修状況を記録し、自己評価、教員による評価をおこない 4 年間の過程を振り返る。

14. 自ら考え、保育・教育現場などで生かすことのできる子どもについての幅広い専門知識と多角的で柔軟な考え方を身につけるという学科専攻科目に関わる 4 年間の総合的な学習成果の評価は、卒業研究を作成する過程で、またその成果物である「卒業論文・卒業制作」によっておこなわれる。さらにゼミナール合同でおこなわれる卒業論文発表会で、学生相互の評価、複数教員による評価がおこなわれる。

【健康栄養学部】

●健康栄養学科

健康栄養学科は、ディプロマポリシーに掲げる知識・技能等を修得させるために、学士課程基幹教育科目、学科専攻科目等を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に設置する。なお、カリキュラムの体系についてはカリキュラムマップにおいて明示する。

1)教育内容

1. 4 年間をととした学修の基礎となる学士課程基幹教育科目に関して、初年次教育において必修科目を履修し、論理的思考力・コミュニケーション力・情報収集力等の基本となるスキルを獲得する。

2. 学士課程基幹教育科目主題別科目群に関しては、初年次から自らの関心に応じていくつかの主題領域、科目を選択し、現代社会を批判的に捉える視点、問題を発見する力や解決に向けて継続的に取り組む力を獲得する。また、学修の成果を就業につなげ、実社会に役立てるために、2 年次以降、学士課程基幹教育科目キャリア系科目を履修する。

【健康栄養学部共通】

3. すべての学生は、健康栄養学科専攻科目の学修に必要な基礎的知識の修得のために『化学』、『生物』を履習する。また、基本的な学習能力の獲得および管理栄養士・栄養士の役割を理解し、大学での学びへの動機を高めるために『アカデミック・スキルズ A・B(健康)』を履習する。

【管理栄養士専攻】

4. 管理栄養士に、これから必要とされる知識、技術を広く学術的知見に基づいて修得するため、本学科専門基礎科目として生理関連科目、食品関連科目、保健衛生関連科目を、また専門科目として栄養関連科目、栄養教育関連科目、給食経営管理関連科目を履習する。

5. 管理栄養士に求められる栄養管理・栄養教育に関するスキルを統合的に身につけるために健康栄養研究を履習する。
6. 学校給食管理・食に関する指導を行える者を育成するために、栄養教諭に関する科目を履習する。
7. 修得した知識や技術を統合し、課題を的確に捉え、他者との協働によって適切に対応できる行動力を育成するために卒業研究を遂行し卒業論文を執筆する。
8. 4年次において、複数回の到達度試験を受験し、管理栄養士に求められる高度な専門知識の理解度を客観的な基準に基づく厳格な評価を受け管理栄養士国家試験受験資格取得をめざす。

【食物栄養専攻】

4. 栄養士に、これから必要とされる知識、技術を広く学術的知見に基づいて修得するため、健康栄養科専門基礎科目として生理関連科目、食品関連科目、保健衛生関連科目を、また専門科目として栄養関連科目、栄養教育関連科目、給食経営管理関連科目を履習する。
5. 食品分野における商品開発のための企画力や食を中心とした正しい健康情報を広く伝えるための教育力を統合的に身につけるために健康栄養研究を履習する。
6. 学校給食管理・食に関する指導を行える者を育成するために、栄養教諭に関する科目を履習する。
7. 中学校・高等学校教諭(家庭)養成のための科目を履習する。
8. 食品の官能評価・鑑別など《食》に関する高度な専門知識・技術を有し、食べ物や食生活について、流通・販売者と消費者に的確な情報を提供し、またレストランや食堂などで快適な飲食ができるよう食空間をコーディネートし、さらに《食》に関する消費者のクレームを処理できる専門職を育成するために、フードスペシャリストに関する科目を履習する。
9. 修得した知識や技術を統合し、課題を的確に捉え、他者との協働によって適切に対応できる行動力を育成するために卒業研究を遂行し卒業論文を執筆する。

2)教育方法

【健康栄養学部共通】

10. 自ら考え、他者との協働によって、健康・栄養にかかわる課題を解決に導く行動力を高めるために、学科専攻科目、学士課程基幹教育科目においてアクティブラーニング、PBL、グループワークを教育方法に取り入れ、授業を行う。
11. 4年間に渡り着実に学力を積み上げていくために、栄養学の基礎となる化学・生物について演習形式の入学前教育をおこなう。また、入学後にも基礎的内容を定着させるために化学・生物の教育を行う。
12. 学修に関する目標・記録・評価の総合 Web ツールを活用し、4年間にわたる自己の学修成果と学生生活を自分自身で管理するとともに、精神的に前向きに取り組めるよう定期的に行うアドバイザー教員との面談の支援のツールとしても活用する。

【管理栄養士専攻】

13. 学科専攻科目において、講義で学んだ知識を実践的に活用できる技術を修得するために、実験・演習科目を多く取り入れる。また、これから必要となる力を身につけるために、学外の給食会社、保育所、福祉施設等における給食の運営に関する実習、病院、保健所等における栄養管理・栄養教育に関する実習、インターシップにおける食品開発プロジェクト等への参加による教育方法を取り入れるとともに、その実施時期・課題について学内の講義、実験・演習

科目等との整合や連携に配慮して計画的に実施する。

14. 管理栄養士として必要な知識・技能についての4年間の総復習を実施する。また、正課の講義以外でも習熟度クラス別の勉強会を行う。

【食物栄養専攻】

13. 学科専攻科目において、講義で学んだ知識を実践的に活用できる技術を修得するために、実験・演習科目を多く取り入れる。また、これから必要となる力を身につけるために、学外の給食会社、保育所、福祉施設等における給食の運営に関する実習、インターシップにおける食品開発プロジェクト等への参加による教育方法を取り入れるとともに、その実施時期・課題について学内の講義、実験・演習科目等との整合や連携に配慮して計画的に実施する。

14. 正課の講義以外にも、フードスペシャリストとして必要な知識・技能についての4年間の総復習の勉強会を行う。

3)教育評価

【健康栄養学部共通】

15. 卒業までに修得すべき、情報リテラシー・論理的思考力・自己管理能力・問題解決力・チームワーク等の汎用的能力を測る学士力指標を用いた評価ルーブリックおよび達成度自己評価によって、学生が自己の達成度を評価するとともに、アドバイザー教員からの評価を受け、面談をとおして振り返りと改善を行う。

16. 自ら考え、他者との協働によって、健康・栄養にかかわる課題を解決に導く行動力を身につけるという学科専攻科目に関わる4年間の総合的な学修成果の評価は、卒業論文の執筆・発表によって行い、複数教員によって評価する。

【管理栄養士専攻】

17. 栄養管理・栄養教育を実践する上で必要な思考・判断力を身につけ、基本的な課題に対応できる管理栄養士としての総合的な学修成果の評価は、健康栄養研究における発表会および複数回の到達度試験によって総合的に評価する。

【食物栄養専攻】

17. 教育現場での栄養教育、給食施設での栄養管理や衛生管理に関する技術を身につけている、および食品工業・産業分野における基本的な食品開発及び企画力を身につけているかの評価は、健康栄養研究における発表会によって総合的に評価する。